様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月　９ 日現在

機関番号：３４３１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２１２０

研究課題名（和文）米国のジェントリフィケーションの研究－創造都市政策に抗する都市社会運動を注視し

研究課題名（英文）A study on American gentrification; focusing on urban social movements against creative city policies

研究代表者
矢作　弘（yahagi, Hiroshi）

龍谷大学・LORC・フェロー

研究者番号：４０３６４０２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　COVID-19の前と後の、アメリカ大都市圏の変容について調査し、考察した。その際、コロナ禍以前に激しかったジェントリフィケーションに注目した。＜都市圏中心都市＞：リモートワークの普及でオフィスの空きが広がり、人口もマイナスになった。しかし、その経済的集積力（AI,IT,バイオ）は強く、「中長期的には、COVID-19以前より強力に回復する」と読み解いた。実際のところ、人口は回復しつつある。＜都市圏郊外＞：再郊外の動きを追った。これまでとは違って小さなダウンタウン機能を持った郊外都市が甦る傾向を読み解くことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　都市は経済、社会、文化活動の主要舞台である。したがってCOVID-19が「都市の「かたち」」をどのように変えるか、それを明かにすることは喫緊の課題になっていた。
　アメリカの大都市は常々、時代に先行し、時代を牽引して変容し続けている。したがってアメリカ都市の変化を明らかにできた意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：This was a study of Amrican cities, especially of big cities like NY and SF, after COVID-19. I could find out the following facts:1) their population recorded minus and emptyness expanded due to prevailing remort-work,2) however, new hight-tec industries (AI, bio, IT) are leading them to be reborn.Also, the suburbs outside these big cites are making a new type of suburban downtown.

研究分野：都市学

キーワード：都市再生　COVIDー19　Gentrification　郊外の変容　都市の「かたち」

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

アメリカのスーパースター都市＝東西海岸都市(ニューヨーク、ワシントン、サンフランシス、シアトルなど)で進行するジェントリフィケーション（「G」）が「都市の「かたち」」を変容し、新しい都市危機を生み出している。格差拡大、中間階層の解体、社会の分断の深化・・。この危機を超克する持続可能な都市のモデルを探ることが研究の概要になる。事例研究を基礎に、文献研究に取り組む。また、海外研究者と連携し、複眼的なアプローチを試みる。

＊かたち＝可視的、建築的な意味に止まらず、人々の働き方／暮らし方を含む都市の総体を指して使っている。

２．研究の目的

世界の都市で「G」がおきている。「地区の「改善」」を意味するが、一方で家賃や店賃が高騰し、それまでの住民の追い出しかがおきている。しばしば、後から来街した人々がコミュニティで経済的、社会的、文化的、政治的に圧倒的な力を発揮することがおきる。コミュニティの「植民地化」と呼ばれる現象である。これが新しい「都市危機」の様相を示している。

この「G」に対峙する都市社会運動がおきている。草の根発で地区労組、政治家が連携する展開を示すこともある。1960-1970 年代の都市社会運動とは様相を異にする。

「G」と「G」を誘発させる都市政策を縦糸に、都市社会運動を横糸に、その交差するところで21世紀の変容する「都市の「かたち」」を考える。事例先はニューヨークのブルックリンとワシントン。その際、創造階級+創造都市論を展開し、「G」を賛美したR.フロリダの「転向」に注目する。

３．研究の方法

(1) 文献研究(書籍、論文、メディアの記事)

龍谷大学、トリノ大学などの図書館、及び検索システムを活用する。

(2) 事例研究:

①ニューヨークのブルックリン地区(昨今、激しい「G」が進行している):インタビュー、資料収集

②ワシントン(政治都市からハイテク都市に変容し「G」が深刻になっている):インタビュー、資料収集

③イタリア人研究者(都市社会学　「G」研究)、アメリカ人研究者(都市計画　「G」研究者+アーティスト)と共同

④紀要などに積極的に投稿を目指す。

⑤調査先での勉強会

４．研究成果

・2010 年代のニューヨークでGAFA が先導する「G」が激しい勢いで進行し、それ以前の「G」と様相が大きく違っていた状況を明らかにした。

・Amazon がクイーンズ地区に第二本社を計画した際、広範囲（政治家、NPO、労組）が反対運動を展開したが、そこに新たな都市社会運動の萌芽が見られることを示した。同様の動きをシアトル、サンフランシスコに追った。

・研究期間中、COVD-19 が流行った。それまでの「G」は幾分か緩和したが、不動産市場は２極化現象を示した――オフィスビル市場の低迷、住宅価格の高騰。この傾向に在宅勤務の普及がどのように影響しているかを明らかにした。
・郊外の変容を明らかにした。
COVD-19 は、郊外に＜都心機能＞＝郊外ダウンタウンを創出するなど「郊外の「かたち」」を変化させた。伝統的な郊外に対して、＜Other Suburb＞と呼ばれるこがある。在宅勤務の普及が、郊外都市に買い物/娯楽機能を併設することを求めようになったことが影響した。
住宅の取得年齢に達したミレニアム世代が郊外ダウンタウンに引っ越す事例が増えている。また、郊外都市はベビーブーマーが高齢化し、若い世代の呼び込みに力を入れている。そのためにもアーバンアメニティを備えた新しい郊外ダウンタウンつくりは、大切な都市政策課題になっている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 矢作弘	４．巻 －
２．論文標題 スーパースター都市のアフォーダビリティ　Before & After COVID-19	５．発行年 2023年
３．雑誌名 都市計画	６．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢作弘	４．巻 －
２．論文標題 「変わりゆくアメリカの都市のかたち」連載　戸建て住宅専用地区の廃止と郊外の変容（上、中、下）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 学芸出版社　ホームページ　web	６．最初と最後の頁 上　中　下
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢作弘	４．巻 －
２．論文標題 「変わりゆくアメリカの都市のかたち」連載　アフターコロナのビジネスセンター（上、中、下）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 学芸出版社　ホームページ　web	６．最初と最後の頁 上　中　下
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢作弘	４．巻 －
２．論文標題 「変わりゆくアメリカの都市のかたち」連載　NYが米国初の混雑税導入	５．発行年 2023年
３．雑誌名 学芸出版社　ホームページ　web	６．最初と最後の頁 上　中　下
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 ー
2．論文標題 「変わりゆくアメリカの都市のかたち」連載　コロナ禍から回復が遅れるサンフランシスコ	5．発行年 2024年
3．雑誌名 学芸出版社　ホームページ　web	6．最初と最後の頁 上　中　下
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 354
2．論文標題 アフターコロナの「都市の「かたち」　パンデミックとジェントリフィケーション	5．発行年 2022年
3．雑誌名 都市計画	6．最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 115
2．論文標題 アフターコロナの「都市の「かたち」　アメリカの経験から考える	5．発行年 2022年
3．雑誌名 都市住宅学	6．最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 873
2．論文標題 アメリカの窓から――カリフォルニアの「ファンファーレ」が鳴る	5．発行年 2021年
3．雑誌名 図書	6．最初と最後の頁 25ー28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 115
2．論文標題 アフターコロナの「都市の「かたち」――アメリカの経験から考える	5．発行年 2021年
3．雑誌名 都市住宅学会	6．最初と最後の頁 19－24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢作弘	4．巻 354
2．論文標題 アフターコロナの「都市の「かたち」」――パンデミックとジェントリフィケーション	5．発行年 2021年
3．雑誌名 都市計画	6．最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

1．著者名 矢作弘	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 300
3．書名 都市危機のアメリカ	

1．著者名 矢作弘（編著）	4．発行年 2021年
2．出版社 学芸出版社	5．総ページ数 280
3．書名 コロナで都市は変わるか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関